これからの時代を生きる中学生の「幸福」への価値観に関する調査・分析

清水 凌平　・　中西 美友
（大阪人間科学大学，京都教育大学大学院教育学研究科 修了）　（京都教育大学付属桃山中学校）

Research and Analysis of Junior High School Students' Values Regarding "Happiness" in the Current Era

Ryohei SHIMIZU，Miyu NAKANISHI

2024 年 9 月 26 日受理

抄録：昨今国内外でウェルビーイングへの注目が高まっている。現代の子ども達を取り巻く環境は，複雑かつ予測困難なものであり，今後もそれは継続していくであろう。そのような時代を生きる子ども達がウェルビーイングや幸福に対してどのような価値観・考えを持っているのかを把握し，そのニーズに応えうる学びを構築していくことで，学習者の主体的な学びへの参加が期待できるのではないかと考えられる。本研究では，そのような背景から，中学生が「幸せ」に対して持つ価値観・考えについて，実態調査を行った。その結果，中学生が考える幸福の根源的な要素として「自分の好きなことやしたいことができる自由」があり，「フラットな関係性の仲間」を求めていること，また複雑かつ予測困難な社会からの影響を受けていることが結果から見えてきた。

キーワード：ウェルビーイング，中学生の幸福，キャリア教育，自己実現

Ⅰ．はじめに

近年，国内外でウェルビーイング（well-being）への関心が高まっている。ウェルビーイングは経済協力開発機構（OECD）の『PISA2015 年調査国際報告書 VolumeⅢ：Students' well-being』において，「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な，心理的，認知的，社会的，身体的な働き（functioning）と潜在能力（capabilities）である」としている。また，溝上（2023）はウェルビーイングについて「ウェルビーイングとは，主観的に良しと評価する自身のライフを過ごしている状態」と述べており，ライフとは時間幅の短い日々の生活と，時間幅の長い人の生涯との両方を含意していると説明している。

OECD が 2019 年に示した「Education2030 ラーニング・コンパス」（以下，ラーニング・コンパス）において，コンピテンシーを身につけた先にある目標としてウェルビーイングが想定されている（白井，2020）。ラーニング・コンパスでは，個人と社会のウェルビーイングが「私たちの望む未来（Future We Want）」であり，社会のウェルビーイングは共通の「目的地」とされている。

ラーニング・コンパスにおいて示されたウェルビーイングは国内の教育方針にも大きく影響を及ぼしている。『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと， 協働的な学びの実現～（答申）』（2021）の中でラーニング・コンパスおよびその目的地であるウェルビーイングの実現が取り上げられており，『第 4 期教育振興基本計画』（2023）においても，経済先進諸国においてウェルビーイングの考え方が重視されてきていることに触れ，さらには総括的な基本方針・コンセプトの 1 つとして，「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げている。これらのことからも，子どもたちのウェルビーイングを考慮した上で教育を実践することはこれからの時代において欠かすことはできないだろう。

現代社会ならびにその中で生きる人類を取り巻く情勢は複雑かつ予測困難な局面にあると言える。ICT や IoT，AI 技術などの発達に伴う急速な情報化や少子高齢化社会の到来，自然災害や未知の感染症への不安など，現在

の世界が抱える課題は非常に多岐にわたっている。このような世界を今後生きていく，現代の子ども達が，自身や社会の望むように生き，自己実現を図っていくことは，決して簡単ではないことが予測される。また，現代の子どもたちはスマートフォンなどが生まれた時から身近にあるデジタルネイティブであること，幼少期に新型コロナウィルス感染症の爆発的な流行を経験しているなど，これまでの世代にない環境や出来事を経験している。これらから，現在の子ども達が持つウェルビーイングや将来の幸福に対する価値観や考え方は，これまでとは異なったものではないかと考えられる。これらの価値観や考え方を把握し，子どもたちの持つ将来の展望や「幸せ」に対しての潜在的なニーズに応えうる学びの場を構築することで，学習者はより学習の有用性を実感することができ，主体的な学びへの参加が期待できるのではないかと考えた。

以上より，本研究では，OECDや文部科学省が見据える2030年の社会を中心的に担っていくと考えられる中学生を対象として，中学生がウェルビーイングとも関連が深い「幸せ」について，現在の「幸せ」ならびに将来的な「幸せ」に対して，どのような価値観・考えを持っているのか，その実態を調査する。それらから，ウェルビーイングが中学生の思い描く「幸せ」と相違ない形で実現するための教育実践についての基盤的な示唆を得ることを目指す。

Ⅱ．方法

1．対象者と方法

本学附属桃山中学校第2学年および第3学年に在籍する生徒を対象に質問紙調査を実施した。2024年7月12日～7月18日の間に実施された授業の任意の1コマの冒頭に質問紙を配布し，回答を求めた。第2学年125名，第3学年123名より回答を得た。なお，各調査項目には欠損値があり，本稿ではそれらを除いて計算を行った。そのため，各問対象者数は異なっている。

2．設問内容

質問紙の設問内容を表1に示す。質問紙は無記名で実施し，学年および性別（男・女・回答しない）の記入を求めた。設問は中学生の考える将来的な「幸せ」ついての設問3項目（表中番号1～3）と，中学生の価値観についての設問21項目（表中3-1～4-11），現在の「幸せ」や自分の姿についての設問3項目（表中5～7）で構成した。なお，本調査の趣旨・目的，方法，倫理的配慮，個人情報の取り扱い等についての説明を質問紙の冒頭に記し，口頭においても説明を行った。回答の提出をもって，研究への同意を得た。

中学生の価値観についての設問について，質問3については，松井（1999）における価値観に関する5つの項目（「自己中心―他者志向」「個人生活志向性―共同体志向」「物質主義－精神主義」「外的統制－内的統制」「現在志向－将来志向」）を，質問4については高橋（2023）における人間的価値観についての項目を参考に作成を行った。

表1　質問紙の内容（〔〕は回答方式，【】は選択肢の内容を示す。）

番号	質問内容
1	10年後の自分をイメージして，「幸せ」な状態とはどんな状態をイメージしますか。 職業面（仕事の内容，職場環境，仕事の進め方，給料，休暇など），生活面（家族や家庭，交友関係，趣味，スキルアップなど）それぞれで，できるだけ詳しく書いてください。 〔職業面，生活面それぞれについて記述式〕
2	あなたが「幸せ」な人生を送るために特に重視するものは何ですか。思いつくだけ書いてください。 〔記述式〕
3	以下の設問を読み，あなた自身に当てはまる番号に○をつけてください。 【まったくそう思う，どちらかというとそう思う，少しはそう思う，そう思わない】
3-1	人になんと思われようと自分の納得できる人生が大切だ
3-2	人生は自分のことではなく人のことを考えることが大切だ

3-3	何よりも自分の生活を充実させることが大切だ
3-4	皆が幸福にならなければ個人の幸福はない
3-5	人生にはお金が何より大切だ
3-6	人生はお金だけでは幸福になれない
3-7	人生は運に左右されることが多い
3-8	成功はその人の努力次第だ
3-9	今が楽しければよい
3-10	今よりも将来のために努力する
4	以下の設問を読み，あなた自身に当てはまる番号に○をつけてください。 【あてはまる，ややあてはまる，どちらともいえない，あまりあてはまらない，あてはまらない】
4-1	社会的な権力や富，権威などを求めている
4-2	能力を高めたり，成功を通じて，他の人々に影響を与えたい
4-3	自分が満足できるように，人生を楽しむ喜びが大切だ
4-4	変化や挑戦に富んだ刺激のある人生を送りたい
4-5	自分が思い描いたように，自由で好奇心あふれる人生を送りたい
4-6	自然の美しさや自然との一体感，環境保護を大切に生きたい
4-7	社会との調和や平和を大切に，広い心で生きたい
4-8	親切で誠実さを大切に，責任を持ってすべての人を等しく愛したい
4-9	これまでの伝統を尊重し，自分の役割を謙虚に受け入れ，慎み深く生きたい
4-10	親や年長者をうやまいながら，礼儀正しく自分を律して生きたい
4-11	国や社会，家族の安全や社会のルールを守って正しく生きたい
5	現在のあなたは自分が「幸せ」だと思いますか 【そう思う，ある程度はそう思う，どちらともいえない，あまりそう思わない，全くそう思わない】
6	5 でそのように答えたのはなぜですか。理由をできるだけ詳しく書いてください。〔記述式〕
7	将来，あなたが「幸せ」な人生を送るために，今どんなことをしておきたいと思いますか。理由と一緒にできるだけ詳しく書いてください。〔記述式〕

Ⅲ．結果

1．中学生の考える将来的な「幸せ」

（1）職業面における将来的な「幸せ」のイメージ（質問１）

職業面での「幸せ」のイメージについて，得られた回答の一部抜粋を以下に示す。

・まず自分の好きな仕事ができていて，それにやりがいを感じていると幸せだと思います。
・仕事の内容は自分の趣味，好きなことで仕事ができていて，環境もよく，仕事もストレスのなくスムーズに進められて，給料も多く，しっかり休みがとれている状態を幸せとイメージしました。
・仕事はしていて楽しくてやりがいがあるもので，自分の趣味をとりいれたもの。
・給料は生活にこまらず，好きなものをかえたりぜいたくできたりできて毎月貯金できるくらいほしい。
・給料は不自由なくくらせて余裕があるくらいがいい。
・給料はフルーツやパン屋のパンが気兼ねなく変えるくらいほしい。
・ハラスメントがない会社。

・ほどよくホワイト企業。
・職場での上下関係があまりなく，休暇も自分の融通がきくようにとらせてもらえるような充実したことだと考えます。
・給料は平均的で休暇は土日の二日。
・休みは毎週日曜休みで，それ以外は仕事でいい。
・週休 3 日制（水，土，日）。
・好きな時に休暇がとれる。

非常に多くの回答者が「自分の好きなこと，やりたいことを職にしたい」という趣旨の記述を行っている。

また，給料について，「生活に支障が出ない最低限の給料」といった趣旨の記述が多く見られたが，趣味や若干の贅沢に割けるような余裕が欲しいという補足的な記述が多く見られた。

職場環境において，上司等との上下関係についての記述が特徴的である。多くの記述で「上下関係が厳しくないこと」を挙げている。関連したものとして，パワーハラスメント，モラルハラスメントがないことや，近年問題視されている「ブラック企業・職場」を忌避する回答も見られた。

休暇についての記述では，週あたり 1〜2 日の休暇を挙げる回答が多く，加えて盆や年末年始休業が取得できることを挙げる回答が多くみられる。また，週休 3 日について触れる回答も見られ，それらの回答の多くに水・土・日曜日の休暇を望む記述が散見された。休暇について，好きなタイミングで取れることを重視する趣旨の記述も多く見られた。

（2）生活面における将来的な「幸せ」のイメージ（質問 1）

生活面での「幸せ」のイメージについて，得られた回答の一部抜粋を以下に示す。

・自分の趣味をたくさん持っている人になりたい。
・今好きな事がその時でも好きでいてほしい（マンガ，ゲーム，推しの YouTuber，楽器…）
・仕事をしていない土日祝日などはできるだけ自分の趣味に時間をあてたり，友達や家族と一緒に過ごせる時間が作れていたらいいと思った。
・生活面では結婚して家族ができて，とても仲の良い家庭ができて，月に何回かあう仲の良い友達ができて趣味も充実して自分自身が成長するのが幸せです。
・私は将来，自分が家庭を持つすがたを想像できないので，結婚はせずに，実家や大好きな妹たちの家に住みたいです。
・結婚はしていてもしていなくてもよくて，中学とか高校からのつきあいの長い友達とよく遊びに行ったり，自分の趣味にのめりこむことができる生活が幸せだと思う。
・家族はお父さんお母さんと助け合いしたい。
・父母や弟妹とずっと連絡を取り合えるようにしたい。
・中学校，高校の頃の友達と時々でも遊んだりできる。
・今の友達と 1 人でも交友関係があったら良いなと思っています。
・趣味の合う友達が数人（3〜4 人）いたらそれでいい。
・今ある趣味を大人になっても続けられるようにしたい。また，その趣味で繋がった友人を作りたい。
・友達は広く浅い関係ではなくせまく深い関係の友だちがほしいです。
・家庭や仕事だけでなく趣味をする時間や資格の勉強などの時間がほしい。
・習いごとがしたい（料理とか）。

趣味について触れる記述が非常に多く見られた。「好きなことに取り組める時間が十分に取れること」を挙げる記述が多数散見された。具体的な趣味の内容に触れるものもあり，ゲーム，スポーツ，旅行などが特に多く見られた。また，後述の交友関係とも関連して，趣味を共有できる友人がいることを挙げる記述も複数みられた。

家庭や家族についての記述の特徴として，結婚をし，家庭を持つことを挙げる記述がみられる一方で，「結婚はしない」「家庭はいらない」など独身を望む回答も散見された。また，父母や兄弟姉妹についての記述も多く見られ，良好な関係の継続を望む回答が複数みられた。

交友関係について，現在の中学校時代や今後進学する高校で出会う友人との関係性の継続を望む者が多くみられる。また，交友関係についての記述の特徴として，「深く狭い交友関係」を望む記述が複数みられた。先述の趣味を共有できる友人や気の合う友人を求める記述も多く見られた。

スキルアップについての記述は少数であり，資格取得や料理などの習い事に通うことを望む回答が見られた。

(3)「幸せ」な人生を送るために重視すること（質問２）

「幸せ」な人生を送るために重視することとして，最も多く見られた回答は「お金」や「収入」などの金銭的要素であった。また，「家族」や「友達関係」「人脈」「人と人との関係」などの人的要素も多く挙げられた。質問１との共通も見られ，「自分の好きなこと」「趣味」そのものやそれをするだけの「時間」や「自由」を挙げる回答も見られた。また，「仕事と生活の両立」や「家庭と仕事の両立」といったワークライフバランスについて触れる記述も散見された。

2. 中学生の価値観

(1) 将来や人生に対する価値観についての項目（質問 3-1～3-10）

中学生の価値観についての質問のうち，質問 3-1～3-10 の結果を表 2 に示す。

表 2　将来や人生に対する価値観についての結果

	まったくそう思う	どちらかというとそう思う	少しはそう思う	そう思わない	
3-1 人になんと思われようと自分の納得できる人生が大切だ	119 (48.2%)	85 (34.4%)	37 (15.0%)	6 (2.4%)	247 (100.0%)
3-2 人生は自分のことではなく人のことを考えることが大切だ	27 (11.0%)	69 (28.0%)	108 (43.9%)	42 (17.1%)	246 (100.0%)
3-3 何よりも自分の生活を充実させることが大切だ	100 (40.8%)	100 (40.8%)	40 (16.3%)	5 (2.0%)	245 (100.0%)
3-4 皆が幸福にならなければ個人の幸福はない	50 (20.3%)	64 (26.0%)	72 (29.3%)	60 (24.4%)	246 (100.0%)
3-5 人生にはお金が何より大切だ	72 (29.4%)	86 (35.1%)	67 (27.3%)	20 (8.2%)	245 (100.0%)
3-6 人生はお金だけでは幸福になれない	114 (46.5%)	61 (24.9%)	53 (21.6%)	17 (6.9%)	245 (100.0%)
3-7 人生は運に左右されることが多い	100 (41.0%)	90 (36.9%)	42 (17.2%)	12 (4.9%)	244 (100.0%)
3-8 成功はその人の努力次第だ	127 (51.8%)	73 (29.8%)	36 (14.7%)	9 (3.7%)	245 (100.0%)
3-9 今が楽しければよい	81 (33.1%)	71 (29.0%)	61 (24.9%)	32 (13.1%)	245 (100.0%)
3-10 今よりも将来のために努力する	62 (25.3%)	108 (44.1%)	69 (28.2%)	6 (2.4%)	245 (100.0%)

「3-8 成功はその人の努力次第だ」では,「まったくそう思う」と回答した者が 51.8%と半数を超える結果になった。一方で,「3-7 人生は運に左右されることが多い」について「まったくそう思う」と回答した者も 41.0%と多く存在している。

「3-1 人になんと思われようと自分の納得できる人生が大切だ」の設問においても,「まったくそう思う」と回答した者の割合は 48.2%とおよそ半分を占めており,「3-2 人生は自分のことではなく人のことを考えることが大切だ」の結果も併せると,他者志向傾向よりも自己中心的傾向がうかがえる。

「3-6 人生はお金だけでは幸福になれない」では,「まったくそう思う」の回答が 46.5%と高い割合を占めた。

また,本研究で得られた結果と松井(1999)の調査結果との比較を行った。「まったくそう思う」の回答数が回答全体に占める割合に 10 ポイント以上の差が見られたものとして,「3-1 人になんと思われようと自分の納得できる人生が大切だ」,「3-5 人生にはお金が何より大切だ」「3-7 人生は運に左右されることが多い」「3-9 今が楽しければよい」の 4 項目が挙げられる。先行研究での「まったくそう思う」の回答数の割合はそれぞれ,3-1 では 36.4%(11.8 ポイント上昇),3-5 では 32.5%(10.8 ポイント上昇),3-7 では 24.7%(16.3 ポイント上昇),3-9 では 15.0%(18.1 ポイント上昇)である。

(2) 人間的価値観(質問 4-1～4-11)

中学生の価値観についての質問のうち,人間的価値観についての質問 4-1～4-11 の結果を表 3 に示す。

表 3 人間的価値観についての結果

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	
4-1 社会的な権力や富,権威などを求めている	49 (20.0%)	73 (29.8%)	59 (24.1%)	42 (17.1%)	22 (9.0%)	245 (100.0%)
4-2 能力を高めたり,成功を通じて,他の人々に影響を与えたい	88 (35.8%)	86 35.0	40 16.3	24 9.8	8 3.3	246 100.0
4-3 自分が満足できるように,人生を楽しむ喜びが大切だ	169 (68.7%)	54 (22.0%)	19 (7.7%)	4 (1.6%)	0 (0.0%)	246 (100.0%)
4-4 変化や挑戦に富んだ刺激のある人生を送りたい	77 (31.6%)	85 (34.8%)	49 (20.1%)	26 (10.7%)	7 (2.9%)	244 (100.0%)
4-5 自分が思い描いたように,自由で好奇心あふれる人生を送りたい	126 (51.2%)	84 (34.1%)	25 (10.2%)	10 (4.1%)	1 (0.4%)	246 (100.0%)
4-6 自然の美しさや自然との一体感,環境保護を大切に生きたい	49 (20.0%)	88 (35.9%)	63 (25.7%)	30 (12.2%)	15 (6.1%)	245 (100.0%)
4-7 社会との調和や平和を大切に,広い心で生きたい	96 (39.0%)	95 (38.6%)	41 (16.7%)	10 (4.1%)	4 (1.6%)	246 (100.0%)
4-8 親切で誠実さを大切に,責任を持ってすべての人を等しく愛したい	81 (32.9%)	85 (34.6%)	51 (20.7%)	19 (7.7%)	10 (4.1%)	246 (100.0%)
4-9 これまでの伝統を尊重し,自分の役割を謙虚に受け入れ,慎み深く生きたい	50 (20.3%)	77 (31.3%)	74 (30.1%)	33 (13.4%)	12 (4.9%)	246 (100.0%)
4-10 親や年長者をうやまいな	81	81	56	20	8	246

がら，礼儀正しく自分を律して生きたい	(32.9%)	(32.9%)	(22.8%)	(8.1%)	(3.3%)	(100.0%)
4-11 国や社会，家族の安全や社会のルールを守って正しく生きたい	108 (43.9%)	96 (39.0%)	34 (13.8%)	7 (2.8%)	1 (0.4%)	246 (100.0%)

特徴的な項目について，その傾向を以下に述べる。

「4-3 自分が満足できるように，人生を楽しむ喜びが大切だ」において，「あてはまる」「ややあてはまる」と肯定的な回答をした者の割合は 90.7%であり，「あてはまる」と回答した者は全体の 68.7%と高い割合が見られた。

「4-5 自分が思い描いたように，自由で好奇心あふれる人生を送りたい」において，「あてはまる」「ややあてはまる」と肯定的な回答をした者の割合は 85.3%であり，「あてはまる」と回答した者は全体の 51.2%と半数以上であった。

「4-11 国や社会，家族の安全や社会のルールを守って正しく生きたい」において，「あてはまる」「ややあてはまる」と肯定的な回答をした者の割合は 65.8%であり，「あてはまる」と回答した者は全体の 43.8%であった。

一方で「4-1 社会的な権力や富，権威などを求めている」においては，「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と否定的な回答した者の割合が 26.1%と，他の項目と相対的に高い傾向を示した。

3. 現在の「幸せ」や自分の姿

(1) 現在の「幸せ」について（質問 5,6）

現在の幸せについて問うた「5 現在のあなたは自分が「幸せ」だと思いますか」の結果を以下に示す。

	そう思う	ある程度はそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	
回答数	108	89	27	15	3	242
	(44.6%)	(36.8%)	(11.2%)	(6.2%)	(1.2%)	(100.0%)

また，質問 5 で回答した理由について問うた質問 6 で得られた記述を一部抜粋して以下に示す。

- 今，家族に勉強のために塾へ行かせてもらったり，普通はできない様な環境を作ってもらっているから。
- 勉強ができる環境にいて，部活も楽しくて，友達がいるから。
- 勉強ばかりしていてつらい。
- 授業はあまりたのしくなくてやりがいを感じないから。
- 私には，たくさんの友達もいるからです。でも，ほぼ学校だけでしか会えないのは少し残念です。でも授業も楽しいし，部活も楽しく，後輩などとも接することができているので，とても幸せだと思います。
- 今後高校入試で勉強集中しなければならないので，辛さというものも出てくると思う。
- 義務教育に囚われている中で，自分が幸せだと思えることを継続してやるのには無理があるから。
- だいたい不自由なく暮らせていて，家族と友達など周りの人にめぐまれているから。
- 毎日 3 食ごはんが食べれているから。家があるから。
- めぐまれた環境で，毎日ご飯を食べることができ，さらに習い事にも行かせてもらっているので，幸せなのだと教えてもらっています（両親が主に）。
- 自分の趣味に多くの時間をあてることができているから。
- 自分の好きな趣味などにも勉強やスポーツもしながら全力で楽しむことができるから。
- 親や家族には恵まれていると思います。好きなこともさしてもらってますし，私の親はあまりきびしくないです。
- 私たちにとっては当たり前のことが当たり前でなかった時代や今も貧困に苦しんでいる国があると考えたらとても幸せだと感じる。

・世界でいう広い範囲で見ると，満足に食事できない人や，親がいなくて働かないといけない子ども，周りの環境が悪すぎる人がいる。そう考えると，自分はそのようなことが全くないから。
・毎日のように学校に通えて，友達と話し，授業を受け部活をする，ということを繰り返し行っているが，世界中でこのことができるのは必然ではないから。

「そう思う」「ある程度はそう思う」の割合は 81.4%と大半の回答者が，現在の「幸せ」について肯定的な回答をしている。

その理由として，学校生活，家庭生活，課外活動の 3 つの側面に整理することができる。

学校生活では，友人など人間関係が良好であることを挙げているものが多く見られた。また，勉学についての回答は肯定的・否定的両方の記述が見られた。勉強する環境に恵まれていることを肯定的な理由として挙げる記述がみられる一方で，勉強のためにやりたいことが制限されている趣旨の回答や，今学んでいることの意味に疑問を抱く記述や，自分のしたい学びとの乖離についての記述も見られた。

家庭生活では，家族についての記述が多く見られ，「仲が良い」などその関係性が良好であることを挙げる回答が多くみられる。また，衣食住が充分に満たされているという物的な側面を挙げた回答も散見された。さらに，趣味などの自分の好きなこと，したいことをすることができていることも肯定的な回答の理由として挙げている。一方で，未成年や中学生であることによって，制限を感じ不自由であると感じていると思われる記述も見られた。

課外活動では，部活動やスポーツ，習い事，塾などへの言及が見られ，自分のしたいことができているという回答が複数見られた。これらの課外活動の回答には「～させてもらえている」という記載が頻繁にみられ，親の庇護のもと自分のしたいことが叶っているということを自覚していることが見受けられる。

相対的に自身の現状をとらえ，「幸せ」であると回答する者も複数みられた。衣食住が満たされていない，学校に通えない子どもとの比較や日本が平和な国であることへの言及などが散見された。

(2)「幸せ」な人生を送るために，現在しておきたいこと（質問 7）

「7 将来，あなたが「幸せ」な人生を送るために，今どんなことをしておきたいと思いますか」で得られた回答の一部を抜粋して以下に示す。

・たくさん勉強をしておくこと。→未来の自分が困らず楽しくいきていくため。
・勉強をして，仕事につくことができ，視野も広げられるようになりたい。
・勉強→何かを知ることで世界が広がる。机の上だけじゃなくて沢山のものに触れて学びたい。
・良い職に就くには学歴がいるので勉強をする。
・自分の就きたいと思える仕事に就くために（職を選べるようにするために）勉強としてある程度の学力をつける。
・勉強。頭が良ければとりあえずどっかに役立つ。
・いろんな人と関わる。将来人脈がとても大事になると思うから。
・大人になっても共に居れる友達を作っておく。何才になっても仲間は多い方が良いと思っているから。
・友人をつくる。友人がいれば相談もできるし，将来でも仲良くできる友人をつくれるかもしれないから。
・「今」を楽しむ‼過ぎてから後悔するのじゃ遅い。
・今をたのしむことです。←中学じだいをあのときこうしておけば…こうかいがあったら，ちょっといやだからです。
・色んなことに挑戦してみたいです。まだ，自分にどんな能力があるのか，どんな才能があるのか分からないので，色々自分の才能を探してみたいです。
・今は勉強が大事だが，後になって役に立つのは「人生経験」で，経験で得られるものは勉強で得たものよりも役に立つので，経験を重視していきたい。

「勉強」や「学力」,「学歴」などについての記述が多く見られた。その理由として，より良い高校や大学への入学を目指すものや，職業選択の幅を広げることや将来何かの役に立つことを見越してのものが複数みられた。また，より良い高校・大学への進学を理由にあげているものも，その先に高収入や安定収入を得られるような良い職業・企業への就職をすることを目的としている記述が見られた。

また，人間関係についての記述も多く見られ，特に友人関係を大切にしたい，継続していきたいといった趣旨の回答が見られた。理由として，人との関係の構築により互いに助け合うことができるとの記述が見られた。これらは質問 2 において，中学校時代の友達との交流を挙げていたこととの関係がうかがえる。

以上に加えて，3 年生を中心に，今を楽しむことや様々な経験を積むことなどへの言及も散見された。この理由として，先述の勉学と同様，将来の選択肢拡大に加え，社会に出てからでは様々な理由でできなくなってしまうことや，過去を振り返った時に後悔したくないという記述が挙げられた。

Ⅳ．考察

中学生がイメージする将来的な「幸せ」において，「自身の好きなことをできる」という要素は職業面，生活面の両方において大きな要素であることが伺える。自分が自分らしく生きたい，という自己実現欲求が幸福へ強く結びついていると推察する。これは，質問 5，6 で現在の「幸せ」の理由として，自分の好きなことができていることを挙げる者が多くいたことからも，現在の幸福の基準にも関係していることが伺える。「自分の好きなことをできる」ということは中学生にとっての「自由」であることが考えられる。そのため，職業面での幸せにおいて，給料や休暇の量が多いことを挙げる中学生が少数であった背景として，「自由」が十分に確保できるだけの金銭や休暇が得られるのであれば，その量は必ずしも多くなくても良いという考えがあるのではないかと考えられる。このことは，人間的価値観において，「4-3 自分が満足できるように，人生を楽しむ喜びが大切だ」や「4-5 自分が思い描いたように，自由で好奇心あふれる人生を送りたい」で肯定的な回答が多く見られ，「4-1 社会的な権力や富，権威などを求めている」で否定的な回答が相対的に多く見られることも根拠の 1 つになりうるのではないだろうか。以上より，「自身の好きなこと，やりたいことができる自由」は，現代の中学生の持つ「幸福」に対する価値観・考えとして非常に根源的なものであることが示唆される。

人間関係において，将来的な「幸せ」のイメージの中で，職業面で厳しい上下関係を忌避し，生活面で「深く狭い交友関係」を求める傾向が見られた。これは，先述の「自身の好きなこと，やりたいことができる自由」を阻害することなく，自己実現をするにあたってプラスにはたらくような「フラットな関係性の仲間」を望んでいるのではないかと考えられる。

本研究の結果からは，中学生を取り巻く環境についてもうかがい知ることができる。

先行研究と比較し，「3-7 人生は運に左右されることが多い」「3-9 今が楽しければよい」では，特に大きなポイントの上昇が見られた。本稿冒頭にも述べたが，現代の中学生を取り巻く社会は複雑かつ予測困難な局面にある。そのような状況は，中学生の中で人生には自身ではどうにもできない部分があるという外的統制や，先の見えない未来を憂うよりも現在を生きることに重きを置く現在志向の高まりに影響を及ぼしているのではないかと考えられる。外的統制の高まりは，職業の給料や休暇などの待遇面に対して多くを望まない 1 つの要因にもなっているのではないかと推察できる。

質問 5 および 6 の回答の多くが，学校生活，家庭生活，課外活動の 3 つの側面からのものであったことから，中学生が生きる世界がその 3 つに閉じてしまっていることが想像できる。発達段階の側面からも中学生が多様な経験を積むことは重要である。また，質問 7 の回答からも多くの中学生が未確定の将来に対して，自分の持つ可能性を様々な側面から探っていきたいという想いが垣間見られる。多様な経験を積み，中学生のこれからの可能性を広げるために，まずは学校での学びがより多様なものになっていく必要性があると考える。進学や就職のために学ぶだけではなく，自身の持つ新たな側面に気づくことができるような学び・経験の場が学校生活の中に拡充されていくことが必要なのではないだろうか。また，学校と家庭以外の第 3 の居場所，サードプレイスが中学生に開かれたものになるべきだと考える。そこで，学校や家庭では得られない経験をすることはもちろん，学校生活や家庭生活以外の幸福の尺度をもつことで，中学生はより様々な方向から自身の幸福について考えることができるのではないかと考えられる。

Ⅴ．まとめ

本研究は，これからの時代を生きていく中学生が，幸福についてどのような価値観・考えを持っているのか，その実態を把握し，昨今関心が高まっているウェルビーイングが中学生の思い描く「幸せ」と合致する形で実現する教育実践への示唆を得ることを目的に調査・分析を実施した。

調査の結果より中学生が考える幸福の根源的な要素として「自分の好きなことやしたいことができる自由」があり，「フラットな関係性の仲間」を求めていることが明らかとなった。また，複雑かつ予測困難な社会からの影響を受けていることも結果から見えてきた。

これからの時代を生きていく中学生がより幸福を実感し，ウェルビーイングを実現していけるように，「自分の好きなことやしたいことができる自由」に基づき，それを共有できる「フラットな関係性の仲間」との協働の場であると同時に，多様な経験を積むことができる学びの場を展開していくことを検討していくことが求められているのではないかと考える。それらの学びの中で，先行き不透明で複雑な社会に対して希望を持ち，自身で未来を切り開いていける実感を得られるような支援も肝要であると考える。

本研究では，質問紙調査の概観から中学生の幸福に対する価値観・考え方の実態把握と，そこからこれからの教育実践への基盤的な示唆を得ることを目指して調査・分析を行った。次の 2 点を今後の課題として，さらに詳細な検討を重ねていく必要がある。まず，1 つ目として，中学生の実態をさらに鮮明に把握することである。今後は統計的手法などの量的分析に加えて，自由記述を質的な側面から詳細に分析することが必要である。2 つ目として，今回得られた示唆を基に実際の教育実践をデザインし，評価を行っていくことが挙げられる。それにあたり，現在行われている教育実践の中での中学生の姿から，中学生の幸福・ウェルビーイングの表出を掴んでいくことも重要であると考える。

参考文献

中央教育審議会(2021)「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して~全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現~(答申)」

中央教育審議会(2023)「次期教育振興基本計画について(答申)」

伊藤裕子・相良順子・池田政子・川浦康至(2003)「主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討」『心理学研究』，276-281

国立教育政策研究所(2017)「PISA2015 年調査国際結果報告書 生徒の well-being(生徒の「健やかさ・幸福度」)」

松井洋(1999)「日本の中学生・高校生の価値観に関する研究-日本，アメリカ，中国，トルコ，キプロス，ポーランドとの国際比較研究-」『川村学園女子大学研究紀要』，131-153

南学(2015)「現代の若者の価値観と主観的幸福感の検討」『三重大学教育学部研究紀要』，171-178

溝上慎一(2023)『学びと成長の講話シリーズ 5　幸福と訳すな！ウェルビーイング論 -自身のライフ構築を目指して』,東信堂

白井俊(2020)『OECDEducation2030 プロジェクトが描く教育の未来-エージェンシー，資質・能力とカリキュラム-』,ミネルヴァ書房

高橋広行・財津涼子・大山翔平(2023)「 Z 世代の価値観タイプの違いによる分類と理解-SDGs や働き方,幸福感との関連性を中心に-」『同志社商学』，49-77

山上寛子(2023)「中学生の将来志向性の特徴-性差及び小学生と比較した学校段階の差に着目して-」『児童学研究 ： 聖徳大学児童学研究所紀要』，41-49

横島三和子・信藤佳奈・フィールデン（野呂）育美・土肥茂幸(2024)，「キャリア意識がウェルビーイングにもたらす影響-修学意欲の向上に向けた検討-」『大阪人間科学大学紀要』，2-10